

〔26・27の職員に対する理事公の説得工作流れる〕

先日の大学新聞に明らかなように「理事公は既に学と値上の決定を内定し、公式発表の段には両向の同意である。前期の繰り上げ試験以後、彼れり理事公は、夏期休暇中、至四行神すむれち至四の校友及、父兄に対する値上の説得——を続け、現在に至っては、學内世論を捉き込みの爲二十一日は本校職員、二十六日和泉、二十七日生田と積極的行動に出たのである。だがしかし、こいつは現時点に於る彼れりの行動は、明らかな七月二日の団交に於て決定した「値上げの方針が決定する以前に、学生と充分に討論し、値上げしない場合もあり、そして争に違反したものであり、本末相互信頼の關係にあるべき大学という共同体の相性も自から暴露したのであった。こいつは「大理事公の教育者らしからぬ、學向の場から、わしくない彼れりの行為に対して抗議の怒りをこめて起ち上がった学友は、二十六日の和泉の職員に対する説得工作を見事に阻止し、我々学生との大衆団交を要求し、勝ち取った。その席上、我々の先に述べた違反に対する彼れりの答弁たるや、至く我々学生を落胆させ、責任の地位につく看の発言と思えぬ程のものであった。それはこいつなのだが「職員に対する説得工作が、學生のそれの前に行われたいはスヶジニールがそう決っているからだ。」値上げは、のスケジニールはいつ決定したのですか?」答「それは一週前程前だ」わいわわが決定したのは二ヶ月前のだ、理事公は、我々との協定を完全無視し、この事は重大な何故なら、この協定違反は大学そのものを否定するものにもなるからだ、大尺値上げは、方向を追求すべく學内、學外のあらゆる団体を利用してやっさになつてゐるのだ(教員のパースアツプも組合が予想だにしない高率10%以上ということもこの協定の二つ

27日の職員(司)に対する説得工作を粉碎し徹夜の団交勝ち取る

26日に続き、大学当局は我々学生との協定を自ら破り生田地区に於て職員に対する説得工作を行しようとした。こいつに対して抗議する學生(和泉80、生田50、本校50)は農學部、前夜抗議集會を開き學内至四にわたり、理事公との団交を要求しました。27日の団交は、夜中戦が十日程前に申し込んでいたのだが、何ら理由を明示せず一方的に拒否した。だが我々の激しい抗議の声に圧倒されついで午後六時団交に同意せざるを得ずついで我々団交を勝ち取ったのだ。この席上、我々は次の責を追究し、明確なる解答を要求して来た。①若手発言「学と値上げは互を得ず、よろしく頼む」(校友及での武田委員長)を考えてみると理事公は否定しているか決定しているのではないか、決定しているのなら學生との協定違反ではないのか。②武田委員長は若手日報を訪問しているが、こいつは何の爲むのか、マスコミ対策ではないのか。③六月二十四日の団交の席上、過去一週間の間、學外の某所秘密の會合は持たず、この事を學生が疑うのなら教育者としての地位をかけると言われたが、その後の大学新聞の報道によると明らか持たれている。我々を嘘をついたのか?の三度にしほらひた。④に對する答弁は「それは新聞記者の誤りであり、財政状態を語つたのみだ」新聞はあくまで客観的に書くものだ。⑤に對しては地方の有力者に頼まれからだ。⑥小出學長がこの事實を認め他の理事も「そういう事もあったよ」ことほける以上の様に彼らは現在の大学の危殆の状況を學生と共に解決しようという態度は全く見えない。困窮に於ては誠意を身せいで、彼らは雇われ、まいな言葉とを繰り返して自ら混乱を招いて、我々には何ぞな、おははらぬか、我々に考える段階に達するまではないのか!!

927A